

韓国で火 17歳 平和の火を全国へ

在韓被爆者の痛み託し



「平和の火」を届ける深尾明加さん(右)と田中希さん

橋本市で

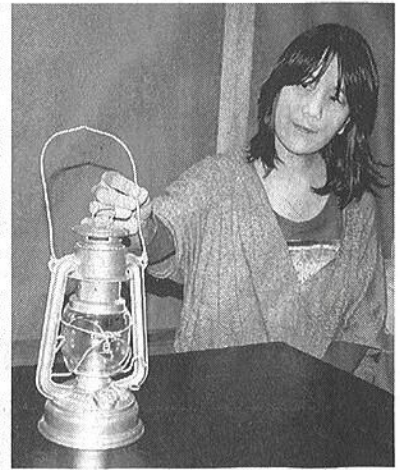
キャンドルナイトで平和の心と在韓被爆者の痛みを伝えようと、九度山町下古沢、きのくに国際高等専修学校2年、深尾明加さん(17)と母の一絵さん(44)らが、韓国・陝川に渡った原爆の残り火「平和の火」を現地で採火、持ち帰って全国に届ける。12、19日に一絵さんが横浜市と紀の川市で、16、18日に明加さんと同級生の田中希さん(17)が札幌市と新潟県燕市で、地域のキャンドルナイト主催者に「平和の火」を分ける採火セレモニーを開く。

【上鶴弘志】

紀の川でキャンドルナイト 19日

「平和の火」は、福岡 委(大阪市)が呼びかけ、県八女市星野村出身の若 毎年夏至や冬至のころ、者が、広島で被爆して亡 村で採火した火を分けて くなった叔父の形見にと 全国でキャンドルナイト 持ち帰り、村が守り続け を開催している。

ている。平和を考える 陝川は在韓被爆者が多 っかけにと「キャンドル く、「韓国ヒロシマ」 ナイトワンピース」実行 と呼ばれる。今回は「平



ランプに採火した「平和の火」を大切に守る深尾一絵さん 九度山町で

和の火」を陝川に運び、在韓被爆者らも参加して採火式を実施。深尾さん母子も参加し、地域の主催者らに渡す「ピース テーション」役を買って

世の苦しみを聞いて泣きました。この気持ちをみんなに伝えます」「平和の大切さは知っていても、どう伝えればいいのかわからなかった。平和の火が、動ききつかけを作ってくれました」と話した。

出た。キャンドルナイトは日韓約60カ所で開催、このうち深尾さんらが届けた火は23会場でもされるという。

2人で「平和の旅」を問い合わせは深尾一絵さん(電話070・668 2・63338)。